

大都市沿岸部における下水道由来の窒素動態

Dynamics of sewage-derived nitrogen in the coastal area of a mega city

*齋藤 光代¹、小野寺 真一²、金 広哲²、谷口 正伸³、清水 裕太⁴

*Mitsuyo Saito¹, Shin-ichi Onodera², Guangzhe Jin², Masanobu Taniguhchi³, Yuta Shimizu⁴

1.岡山大学大学院環境生命科学研究科、2.広島大学大学院総合科学研究科、3.和歌山大学、4.日本学術振興会特別研究員PD、近畿中国四国農業研究センター

1.Graduate School of Environmental and Life Science, Okayama University, 2.Graduate School of Integrated Arts and Sciences, Hiroshima University, 3.Wakayama University, 4.JSPS PD, NARO/WARC

人口の急増する大都市域では、生活排水の増加にともなう水質汚濁が初期に直面する環境問題の一つであり、例えば大阪大都市圏でも1970年代以前は大きな問題であったが、流域下水道の整備にともない改善されてきた。その一方で、近年では下水管の劣化による地下水の流入や、降雨時の雨水の大量流入にともなう下水道由来の沿岸域への物質負荷が問題視されている。しかしながら、下水道由来の物質負荷が沿岸域に及ぼす影響は、これまで十分に定量化されてきたとはいえない。

そこで本研究では、早くから下水道が発達してきた大阪の沿岸域を対象に、下水道由来の窒素動態について明らかにすることを目的とする。